パレスチナ放送と英国のプロパガンダ・ラジオ: 独伊のアラビア語放送にどう応えたか

奈良本, 英佑 / NARAMOTO, Eisuke

(出版者 / Publisher)

法政大学経済学部学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

経済志林 / 経済志林

(巻 / Volume)

77

(号 / Number)

3

(開始ページ / Start Page)

361

(終了ページ / End Page)

384

(発行年 / Year)

2010-03-15

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00006053>

パレスチナ放送と英国のプロパガンダ・ラジオ

—独伊のアラビア語放送にどう応えたか—

奈良本 英 佑

はじめに：

英国パレスチナ委任統治政府（以下、「パレスチナ政府」）が設立した「パレスチナ放送」（Palestine Broadcasting Service¹⁾＝以下、PBS）は、1936年3月の開局から1948年5月の委任統治終了時までの約12年間、パレスチナに居住するアラブ人、ユダヤ人²⁾、イギリス人などを対象に3言語による番組を提供した。この放送開始と同じ月にパレスチナ・アラブの大反乱が勃発、3年間にわたって現地を動乱に巻き込んだ。反乱終息とほぼ同時に、1939年9月から第2次世界大戦が起こり、1945年に大戦が終わると、今度はシオニストが反乱を開始した。1947年の国連パレスチナ分割決議以後は、シオニスト対パレスチナ・アラブの内乱となり、翌1948年5月、PBSは、委任統治終了とともにその役目を終えた。PBSの歴史は、パレスチナ激動12年間の歴史とぴったり重なる。

ところで、世界各地でラジオ放送が普及し始めるのは、1920年代である。1930年代には新聞に匹敵するマス・コミュニケーションの媒体となり、識字率が低い地域では、その影響力は新聞のそれをはるかに超えた。世界各

1) 設置時の名称は“Palestine Broadcasting Station”。

2) 現地のユダヤ教徒と、シオニズム運動によって移民してきたヨーロッパなどのユダヤ人。ここで「ユダヤ人」とは、ユダヤ教徒およびその子孫を指す。

国の指導者は、その政治的影響力に着目し、競って放送局の設立と利用、管理・統制、支配のために力を入れた。

同時代の中東は、イギリスにとって、インド洋と地中海、すなわち、スエズ運河を介してインド植民地と本国を結ぶ要の位置にあった。なかでも、第1次大戦後に委任統治領として獲得したパレスチナは、このスエズ運河にきわめて近く、ユーラシア大陸とアフリカ大陸のつなぎ目にあたる戦略上の要衝だったといつてよい。ここに創られた放送局PBSは、イギリスのパレスチナ支配にとってだけでなく、イギリス帝国の世界戦略にとって特別な役割を期待されていたはずである。PBSの開局が、BBC最初の外国語放送であるBBCアラビア語放送開始より2年早いことも、注目に値する。

しかし、PBSを直接扱った論考は、これまでほとんど発表されていない³⁾。実は、イギリス国立公文書館 (National Archives of United Kingdom) に所蔵されるPBSに関する文書も非常に少ない⁴⁾。このことは、PBSがイギリスの中東政策において実際に果たした役割が、意外に小さかったかもしれないことを示唆する。イギリスはPBS設立に何を期待したのだろうか。PBSはその期待に応えたのだろうか。

本稿の目的は、このような問に答えることである。ここでは、パレスチナでの放送局設立の構想が発表された1930年から、1936年の設立を経て、第2次世界大戦中の1942年までの時期を扱う。1941年、パレスチナには、PBSとは別に、イギリス軍がアラビア語秘密放送「シャルキル・アドナ」(Sharq al-Adna) を開局した。このアラビア語放送は、アラビア半島全域と北アフリカの大部分を含む広範なアラブ地域に電波を送り、急速にリスナーを増やした。1942年になると、この秘密放送は、中東で最も影響力ある放送局にのしあがり、枢軸国からのアラビア語放送に対する対抗プロパ

3) たとえば、Index Islamicusの1906年～2008年各版を検索しても、PBSを主テーマとした論考はまったく見当たらない。

4) 一般的にいえば、委任統治政府関係の文書は、1948年の委任統治終了前後の時期に、一部が英本国に持ち帰られ、かなりの部分が廃棄され、残り一部はイスラエルの手に渡った。今後、イスラエルに保管されている文書にも当る必要がある。

ガンダの主要な武器となった。言いかえれば、パレスチナ政府の公式放送PBSは、中東における戦時プロパガンダの主役を演じることがなかったのだ。なぜか。本稿では、その答を探ることにする。

I. PBSは、いかに設立されたか（1930～1936）：

パレスチナに放送局を設置する最初の構想は、イギリス植民地省から持ち込まれた。1930年9月、植民地省のC. F. ストリックランド（Strickland）は、BBCのサヴォイ・ヒル（Savoy Hill）に会い、つぎのように提案した。（1）人口1000人以下のパレスチナの村800カ所にラウド・スピーカーを設置して（2）村の住民に正確・迅速な情報と娯楽手段を提供し（3）一部の新聞やカフェでの噂を通じて流される反英宣伝に対抗する。彼は、この席上、パレスチナの地元だけでなく、カイロやフランス委任統治領シリアからの反英宣伝の危険性を指摘した⁵⁾。ここで反英宣伝とは、アラブ・ナショナリストによるものを想定していたと考えられる。農村にラウド・スピーカー設置というアイデアは、農村部の識字率が低く、またラジオ受信機の普及が遅れていたという事情による。

同月、非公式にイギリス政府複数の当局者が、パレスチナでの放送局開設について、BBCに相談を持ちかけ、そのための企画と必要な予算の見積もりを求めてきた。BBCはつぎのように回答した。

（1）とりあえず、エルサレムの近くに一所、放送局を設ける。

（2）放送の出力は50kw、予算に余裕があれば80kwとする。この場合、大よその費用は8万ポンドとなる。

（3）パレスチナは丘陵地なので、低出力局なら複数の送信所が必要。送信所を3か所にするなら、エルサレム、ヤーファー、ハイファーとし、それぞれ別々の波長を使うのがよい⁶⁾。

5) BBC Written Archives (以下、BBC) E1/1142 Record of Interview, 3 Sept. 1930.

6) Ibid. Internal Circulating Memo, 25 Sept. 1930.

BBCは、また、番組について、以下の要点を助言した。

(1) 放送の主要な対象は、少数のヨーロッパ人ではなく、現地住民だということに留意すること。

(2) プログラムは、(a) 一般ニュースと地方ニュース (b) 農業と林業に関するトーク、アドヴァイス、お知らせ (c) 児童・生徒・学生対象の教育番組 (d) スポーツ (e) 娯楽 (f) 宗教番組——が必要。

(3) アラブ（イスラーム教徒とキリスト教徒）向け番組は、恐らくパレスチナ政府当局が担当する必要がある。ユダヤ向け番組は、ユダヤ機関が担当できる。

(4) 受信機が普及していない低開発地域の農村では、ラウド・スピーカーの設置が実用的である⁷⁾。

その後しばらく、上記の構想は棚上げされたと思われる。

パレスチナ放送局設置の話が再浮上するのは、1933年、ナチス・ドイツ政権が成立、パレスチナへのユダヤ移民ラッシュが始まった年である。同年6月、パレスチナ高等弁務官ウォークホープは、現地に「放送局を開設したいので技術、資金面でのアドヴァイスがほしい」と、植民地省経由でBBCに要請した⁸⁾。BBCは、エルサレムに20kwの本局、ハイファーに5kwの中継局を建設する場合、テクニカルコストは4万ポンド以下と推計した。

これを受けて、同年12月、ウォークホープは、パレスチナ放送局の設立を正式に提案した。彼は、放送のメリットとして (1) アラブの農村とユダヤ入植地に、彼らの関心が高い情報と教育番組を提供できる (2) パレスチナで騒乱が起きた場合、秩序の回復と維持に役立つ (3) パレスチナにおける商業放送局の設置を阻止できる⁹⁾ (4) 農業と保健衛生に関する知識を広めるのに役立つ——の4点を挙げた。放送時間については、▼英語、アラ

7) Ibid. to Strickland, 7 Oct. 1930.

8) Ibid. Sweeny to Graves, 24 July 1933.

9) 1933年8月頃、アメリカの業者がパレスチナでの商業放送開局を打診、ウォークホープの認可を受けたが、実現したか否かは不明。National Archives, UK (以下、NA) CO733/248/7 McSweeney to Graves, 27 Oct. 1933 ほか。

ビア語、ヘブライ語の番組を各1時間、海外放送（たとえば、BBCやカイロ放送）の転送を2時間の計5時間とする▼放送設備は、エルサレム近郊に20kwの送信機、ハイパーに中継所を設置する▼この放送はパレスチナ政府郵政庁長官（Post Master General=以下PMG）の所管とする▼放送開始予定日は、1935年4月1日に設定する——というものだった。このため、PMGとエルサレム知事（District Commissioner）、教育長官、財務副長官からなる準備委員会が設立された¹⁰⁾。

放送局開設には、BBCが全面的に協力した。1934年2月から、放送に使うレコードの著作権、他の局の番組を転送する場合の権利関係、番組編成の方法、スタッフの人選、放送設備に関わる技術的問題などについて、パレスチナ政府への助言を始めた。

ところで、1934年4月、ファシスト政権のイタリアは、アラビア語の宣伝放送「バリ放送」を開始した。その電波は、エジプトやパレスチナを含む広範な地域をカバーし、リスナーにも好評だった。翌1935年9月、イタリアのエチオピア攻撃で英伊関係が悪化すると、バリ放送は反英宣伝を強化した。その主要な標的は、イギリスからの完全独立を求めるエジプトの民衆と、シオニスト移民に反対するパレスチナ・アラブであった。バリ放送は、「イタリアはイスラーム教徒の友」とのイメージづくりに力を入れ、イギリスの支配に対する闘いをよびかけた。ウォークホープは、12月、同放送に対する妨害電波の使用を提言している。イギリス政府は、妨害電波案は採用しなかったが、同放送への警戒心を高め、対抗宣伝の必要性を強く意識するようになった¹¹⁾。

バリ放送開局より2か月前の1935年2月、ウォークホープ高等弁務官は、パレスチナでの放送開局が農村の生活向上とプロパガンダに役立つとして、カンリッフ＝リスター植民地相宛てに、パレスチナ放送準備委員会が

10) NA CO733/308/12 Wauchope to Sir Philip Cunliffe-Lister, 23 Dec. 1933.

11) バリ放送について詳しくは、Callum A. MacDonald “Radio Bari: Italian Wireless Propaganda in the Middle East and British Counter measures”, *Middle Eastern Studies* 3-2 (May 1977).

まとめた、次のような計画案を送っている¹²⁾。

- (1) 受信機は、人口1000人以上の171カ村のうち、100カ村に設置する。
- (2) それぞれの村には受信機を無料で貸与し、半年後にそれらの村に対し、メンテナンス・コストの半額支払いを求める。
- (3) 受信機は、村の学校やゲストハウスに設置する。
- (4) 一日の番組のうち、少なくとも1時間はアラブの農村向けとする。
- (5) 受信機は、カイロ放送も受信可能なものとする。

この計画実現のため、総責任者にパレスチナ郵政庁長官（PMG）のハドソン大佐、技術責任者に郵政庁技師長のW. K. ブレイシャーが任命され、5人からなる諮問委員会が設置された。顧問3人が当局側、2人の非公式顧問は、パレスチナ・アラブとシオニスト各々1人である¹³⁾。

ハドソン大佐からの要請で、BBCからパレスチナへ、R. A. レンドール（Rendall）が派遣された。しかし、彼は、着任早々、郵政庁の熱意のなさに落胆したと報告している。同年10月の書簡によると、責任者のPMGハドソン大佐自身、放送局開設という事業に興味を示さず、郵政庁の職員たちは「余分な仕事が増えた」ことに不満を感じていたという。そのうえ、財政当局は支出を渋り、放送局を収容するため郵政庁の建物が拡張されたが、それでは狭すぎるとして、「放送専用のビルを建てる必要がある」と指摘した。また、放送スタッフについては、「満足できるのは技術系だけだ」と、非常に厳しい評価を下している¹⁴⁾。

パレスチナ放送の開局は、予定より大幅に遅れた。レンドールによれば、遅れの大きな原因は、郵政庁が事業に消極的だったことに加え、アラビア語部門のサブ・ディレクターに適任者が見つからなかったこと、プログラ

12) BBC E1/1142 Wauchope to Cunliffe-Lister, 8 Feb. 1935.

13) BBC E1/1136/2 Wauchope to Malcolm MacDonald, 23 Sept. 1935. 非公式顧問は、Auni Abd al-Hadi（アラブ）とA. Katznelson（シオニスト）。

14) Ibid. Rendall to D.E.S., 2 Oct. 1935; 8 Oct. 1935; “BBC Internal Circulating Memo”, 23 Oct. 1935.

ム・ディレクターのケンウォーシー (Kenworthy) が不適任だったことなどである¹⁵⁾。

パレスチナ政府の公式放送 (Palestine Broadcasting Service=PBS) は、当初の予定より約1年遅れて、1936年3月31日に放送を開始、ともかくプログラムはスムーズに放送された¹⁶⁾。

パレスチナにおけるラジオ受信機の免許はこの段階で1600件に達し、順調な伸びを見せていた。まもなくプログラム・ディレクター代行に昇格したレンドール (ケンウォーシーは、副ディレクターに降格) は、PBSをPMGから独立させ、高等弁務官直属の自律性の高い組織に再編すること、年末までにラーマッラーに第2の送信施設実現を真剣に考慮することを提言した¹⁷⁾。ウォークホープは、当面PBSを独立した組織として認める用意はなかったが、必要に応じてその独立性を強めることは認めるつもりだと述べた。また、緊急時に対応するためには1日5時間の放送では不十分で、PBSの規模を拡大する必要性があるというレンドールの意見には賛成している¹⁸⁾。

II. PBSとパレスチナ大反乱 (1936～1939) :

パレスチナの政治情勢は、PRS開局の数か月前から緊張度を高めていた。1935年10月、ヤーファー港で、シオニストによるイシューヴ向けの武器密輸が発覚し、ヤーファーその他の各地でパレスチナ・アラブによる抗議のゼネストが行われた。農村部ではゲリラと当局治安部隊との銃撃戦などが起こり、1936年1月には、パレスチナ政府が火器取締りを強化した。PBS開局後間もない4月には、アラブとユダヤ人間の暴力事件が続発し、同月19日、ウォークホープは防衛令を発動した。25日には、パレスチナ・アラ

15) Ibid. Rendall to D.E.S., 3 Dec. 1935; 9 Jan. 1936. その後、ケンウォーシーは、降格され、1936年7月の契約期限切れで退任させられた。

16) BBC E1/1136/4 Rendall to Clark, 1 Apr. 1936.

17) Ibid. Rendall to Chief Secretary of Palestine Government, 7 May 1936.

18) NA C0733/308/12 Wauchope to Ormsby-Gore, 13 July 1936 (received).

ブが6党派からなる「アラブ高等委員会」を結成し、ゼネストを宣言した。アラブのゲリラによる、治安部隊やイシューヴ（パレスチナのユダヤ社会）への攻撃は全土に広がった。高等委員会は、ゼネスト中止の前提条件としてユダヤ移民の停止を要求した。しかし、イギリス・パレスチナ政府側は、ゼネストを中止するまで一切の交渉に応じないと突っぱねた。

ゼネストは、同年10月、何らの成果をあげることなく終息し、ゲリラ活動も下火になった。

しかし、1937年7月、イギリス本国が派遣した「ピール委員会」が、紛争の解決策としてパレスチナ分割案を発表すると、これを不満とするアラブの反発が強まり、ゲリラ攻撃も再燃する。政府は軍を増派するとともに、10月、アラブ高等委員会を非合法化し、指導者の逮捕と追放に乗り出した。逮捕を免れた指導者らは、仏委任統治領レバノンやシリアへ脱出した。ゲリラ活動は、1938年秋ピークに達し、エルサレム旧市を含むいくつかの主要都市を制圧した。しかし、統一指導部を欠くアラブ武装集団は、イギリス軍の反攻によって守勢に立つと内ゲバによって自滅、1939年の夏までにほぼ鎮圧された。大反乱によるアラブの死者は推定約5000人、負傷者は15000人にのぼった。

この間、指導者の一人、ハッジ・アミン・アル・フサイニー（ムスリム最高評議会議長、エルサレムのムフティ）は、1937年10月にパレスチナを脱出し、レバノン・シリアからイラクへ逃れ、1941年5月、イギリス軍がバグダードを占領すると、イラン経由でドイツへ亡命する。

これら相次ぐ大事件がPBSでどのように報道されたか、ほとんど文書記録は残っていない。PBSは多くのパレスチナ・アラブから「ユダヤ放送」

¹⁹⁾あるいは「高等弁務官の伝言板」と見なされ、必ずしも信頼できる情報

19) BBC E3/269/1 “A Supplementary Report on the Arabic Broadcasts of the British Broadcasting Corporation”, May 1938; ほか多くの文書に同様の記録。

源とは受け止められていなかったようである²⁰⁾。イギリスとパレスチナ政府が厳しい情報統制をおこなっていたことは確かで、1936年にBBCが企画した、10月開始の国際問題トーク・シリーズのなかで、パレスチナ紛争に関する番組は、イギリス政府の許可を得られず陽の目を見なかった²¹⁾。その一方、イギリスのパレスチナ政策を非難し、アラブの反乱を支持するバリ放送は、1937年になっても続いた。このため、イギリスは、バリ放送に対抗するアラブ向け放送の必要性を痛感するようになった²²⁾。

1937年4月には、イギリス政府とBBCの間で、広範な中東世界のリスナーを対象にした放送、とくにアラビア語放送開始について意見交換が行われ、そのひとつとして、パレスチナからのアラブ向け放送を充実させる案が出された。だが、外務省は、当初、この案には消極的であった。PBSがパレスチナ政府の公式放送なので、そのニュース報道をアラブは疑わしく思うだろうから、宣伝放送としては適当でないというのである。一方、植民地省は、中波放送のバリ放送に対抗するには、パレスチナからの中波放送が必要だと考えた。イギリス本国のダヴェントリー(BBCの本局所在地)からアラビア語放送を開始しても、中東へは短波放送しか届かないので、パレスチナからの放送が重要だと主張した²³⁾。この頃、アラビア語放送局の立地として、地中海のイギリス領キプロスも候補にあがっていた。

結局、バリ放送に対抗するイギリス側の放送として設立されたのは、BBCアラビア語放送だった。これは、BBCの外国語放送第1号で、1938年1月3日、ダヴェントリーから短波放送を開始した。放送時間は、グリニ

20) パレスチナ・アラブにとってさえも、主要な情報源にはならなかったようだ。筆者が2005年11月から翌年8月の間、パレスチナ難民33人に対して行ったインタビューでは、半数以上が大戦勃発以後の政治情勢に関する情報源としてラジオ放送を挙げた。そのうち、圧倒的に多かったのが、Sharq al-AdnaとBBC(英語、アラビア語)、枢軸側アラビア語放送、次いでカイロ放送で、「エルサレム放送」(PBSのこと?)を挙げたのは2人だけである。

21) NA C0733/316/8 To Bower & Sir C. Parkinson, 24 Sept. 1936; J.M. Martin to Rose-Troup, 29 Sept. 1936, etc.

22) Callum A. MacDonald, op.cit. pp.199~200.

23) BBC E1/1139 BBC to Fry, ND (恐らく Apr. 1937) .

ッジ標準時で夕方の1時間である²⁴⁾。

PBSにとって、問題のひとつは、ニュース原稿をアラビア語に翻訳する適当なスタッフを確保できないことだった。レンドールを継いだプログラム・ディレクターのフライ（BBC出身）よれば、ニュースを一般のリスナーに聴かせるためには、新聞につかわれているような口語調のアラビア語が必要である。しかし、翻訳者の候補になった者たちは、クルアーンに使われるような古典アラビア語にこだわったという²⁵⁾。

1938年に入ると、PBSは番組をかなり充実させた。同年1月のプログラム（別表参照*）によると、放送時間は通常、グリニッジ標準時（以下、略）の午後5時半から10時半の連続5時間で、日によっては前後に延長され6時間以上に及んだ。最初の45分程度が子供の時間。これは、たとえば、初日がアラビア語、2日目がヘブライ語、3日目が英語というように、交互に行われた。成人向けの放送は、やはり、3つの言語がそれぞれ1日当たり75分程度割り当てられた。日によって、どれか一つの言語で60分ずつ2回ということもあったが、一週間の放送時間は、ほぼ等分された。それ以外の時間は、共通のクラシック音楽や語学講座などに使われた。いずれも、毎日、少なくとも3言語による15分間のニュース・天気予報があり、アラビア語とヘブライ語放送では、かんきつ類の市況が加わった。その他の時間は、主として、アラブ伝統音楽を含む古今の音楽演奏と歌番組に割り当てられ、時々トーク・ショーや宗教番組が挿入された²⁶⁾。

同年に植民地省がまとめた、アラビア語放送に関するレポートを見よう。ニュースは、農村向けの地域ニュースと都市向けの一般ニュースがあり、前者はパレスチナ政府の報道官が提供、後者はロイター通信社やBBCが提供した。英語のニュース原稿を、アナウンサーが読みやすいアラビア語に

24) BBC E2/605 "The BBC Programme of First Arabic Transmission, Monday, January 3ed, 1938".

25) Ibid. Fry to BBC, 17 Nov. 1937.

26) 1938年1月16日から1週間の番組表は、NA CO323/1588/2 Broadcast Programs from Jerusalem for Arab Listeners, ND 1938.

素早く翻訳する人材の確保に苦労したが、1938年までには「中近東のアラブ・リスナーが納得し、はっきりと理解できるようなアラビア語放送」が次第に可能になったという。音楽番組のためには、ヴァイオリンのようなヨーロッパの楽器のほか、ウードなど民族楽器も含めた小編成オーケストラが組織された。農村向けトーク番組では、農業協同組合のメリットや公衆衛生を説くものなどが採用された。子供番組ではアラビアンナイトなどから抜粋した物語が放送された。1936年のゼネスト時には、PBSボイコットの呼びかけも行われたが、あまり影響はなかったという²⁷⁾。

イギリス当局者は、BBCアラビア語放送の客観報道主義に不満で、バリ放送に対抗するため、1938年から、あらためてPBSアラビア語放送の拡充を主張した。

同年2月、外務省のリーパーは、まもなく開始されるBBCアラビア語放送について、短波受信機を持つアラブのリスナーが少ないので、中波のバリ放送に対抗するアラブ向け放送としては不十分だと指摘した。これと比較して、PBSは、中波放送というメリットに加え、パレスチナ政府の直轄なので、政府の統制を嫌うBBCと違いバリ放送のプロパガンダに対して有効に対処できると述べた。したがって「エルサレムからの（アラビア語）放送を拡充することは、外国の中近東向けプロパガンダ放送への対抗策として、ダヴェントリーからの放送では足りない部分を補うために最も役に立つ」と主張し、PBS拡充の予算措置を要求した²⁸⁾。

ウォークホープを継いだ高等弁務官H. マクマイケルも「エルサレムの放送局は、この（中近東）地域でイギリスが完全にコントロールしている唯一の局だ」として、そのメリットを十分生かすべきだと強調、「その番組は、パレスチナだけでなく、すべての隣接諸国でアラブ住民が聴いている。この放送は、イギリスが、この地域のリスナーに対し、最良かつ最新のニュースをどれだけ伝える意思と能力があるかを示す、テストケースになる。

27) Ibid.

28) NA CO323/1588/2 Leeper to Wardleym 1 Feb. 1938.

同時に、われわれが、リスナーの興味を引き、役に立つ情報を伝え、優れた娯楽番組をどれだけ提供できるかを試すことになる」と主張した²⁹⁾。

リーパーとマクマイケルは、1938年中、繰り返しPBS拡充の予算を要求したが、財政当局は支出を渋った³⁰⁾。

1939年3月、マクマイケルは、あらためて、「アラブ・ランチ・タイム」の新設を含むPBS拡充企画を提案した。従来の夕方から夜にかけての放送に加え、毎昼食時、15分間のアラビア語ニュース（パレスチナと世界）と娯楽番組を設けるものだ。ヨーロッパ各国からのアラビア語放送が急増しているのに対抗しようという趣旨だった。彼は、昼間の中波放送が、ほかのアラビア語放送との競合も少なく、エルサレムからの夜間放送に比べて、エジプト、シリア、イラクではるかに聴き取りやすいことを強調した。そして、ダヴェントリーからの短波とエルサレムからの中波が互いに補い合っていて、より広範なアラブのリスナーを捉えることができると述べた。そのために、ラーマッラーに中継所を設けることを合わせて提案した³¹⁾。彼の提案は、基本的に、ハリファックス外相とマルコム・マクドナルド植民地相に支持された³²⁾。

PBSの組織についていえば、第2代プログラム・ディレクター、フライと、ハドソン大佐に代わったPMG、ウェブスターの間でも、ニュース報道の管轄権をめぐる両者の対立は再燃した。先にレンドールがプログラム・ディレクターに就任した際、番組編成については彼が、直接、高等弁務官に対して責任を持つことになっていた。ところが、ウェブスターは、番組に対する監督権を取り戻そうとし、フライは強く抵抗した³³⁾。

29) Ibid. MacMichael to Ormsby-Gore, March 1938.

30) Ibid. Leeper to Secretary to Treasury, 11 April 1938; MacMichael to Malcolm MacDonald, 30 Sept. 1938; MacMichael to MacDonald, 29 Nov. 1938, etc.

31) NA CO323/1652/43 MacMichael to MacDonald, March 1939.

32) Ibid. Leeper to Secretary to Treasury, 22 March 1939.

33) BBC E1/1139 BBC to Fry, ND (恐らく Apr. 1937); Internal Circulating Memo by Rendall, 28 Apr. 1937; To Fry, 3 Sept. 1937.

III. 戦時プロパガンダとPBS (1939~1942) :

1938年4月には、ベルリンからのアラビア語放送が始まった。1939年になると、イギリス政府は、ドイツとの戦争は不可避と判断し、そのための本格的なプロパガンダの準備に取りかかった。同年春ごろ、イギリス情報省の下に「合同放送委員会」(Joint Broadcasting Committee=JBC)が設立された。JBCは、戦時に想定される「敵国」「中立国」向けの放送番組を作成・配給する機関である。ジャーナリストをリクルートして多数の番組をつくり、「私企業」の看板を掲げて各国の放送局などに売り込むことを計画した³⁴⁾。

同年9月1日、ドイツ軍のポーランド侵攻で第2次世界大戦が勃発した。翌1940年6月にフランスが降伏した後、イギリスは西ヨーロッパでの孤立した戦いを強いられることになった。ドイツは、バルカン半島から北欧の広大な地域を占領し、1941年2月には、北アフリカ軍団をイタリア植民地リビアに上陸させ、エジプトを脅かした。すでにチュニジア、アルジェリア、モロッコ、そしてパレスチナに隣接するシリアとレバノンも、フランスの降伏によって親独ヴィシー政権の支配下に入っていた。同年末までに、枢軸側は、バルカン半島・北アフリカを含む地中海岸の大半を制圧した。ドイツの占領下に入ったアテネからは、新たなアラビア語放送が流され、中東地域で高い人気を博した³⁵⁾。

北アフリカでは、リビアを主舞台に枢軸軍と連合軍の間で激しい砂漠の戦車戦が展開され、1943年5月まで続く。パレスチナでも、枢軸軍による断続的な空襲があった。この間、エジプトとパレスチナは、中東・北アフリカにおける連合軍の主力であるイギリス軍の最重要基地となった。同時に、この地域におけるプロパガンダ合戦でも、イギリスの拠点となった。

34) NA H38/304 Joint Broadcasting Committee by Hilda Matheson, 29 July 1939, ほかJBC関係一連のファイル。

35) BBC E3/261/1 Bi-Monthly Service Report "The Arab World, Iran, Turkey", 8 Oct. 1942, p.6.

この時期のPBSは、地中海地域一帯で、イギリスが完全に支配する唯一の放送局であった。PBSは、1941年4月、従来の3言語（アラビア語、ヘブライ語、英語）のニュースに加えて、フランス語とトルコ語ニュース報道を始めている³⁶⁾。中東・北アフリカのフランス領とトルコ共和国向けの枢軸側放送に対抗するためである。

PBSでは、アラブ向けプロパガンダを重視して、同年、パレスチナ政府による機構改革が行われた。その結果、ニュースなどのパブリシティ部門は、郵政電報庁＝PMGの管轄から切り離して、パレスチナ政府1等書記官（First Secretary＝高等弁務官の次席）に直属する広報情報局（Public Information Office）の下に置かれた。また、アラビア語部門にはアラブ人のコントローラー（Controller）を置き、英語・ヘブライ語部門にもう一人のコントローラーを置いた³⁷⁾。前者には、アジャージ・ヌウェイヒド（ドルーズ教徒）、後者にはプログラム・ディレクター次席だったP. ポストン（イギリス人）が任命された。

しかし、ポストンは、1942年2月、機構改革後も、この「中近東におけるイギリスにとって最も重要なプロパガンダの手段である」PBSは「その機能を十分に生かしていない」と批判した。彼によると、アラブ番組の責任者になったヌウェイヒドは、ジャーナリストとしては優秀だが、放送の経験と知識が乏しく、有能なアラブ人スタッフを次々に解雇、未経験のスタッフに置き換え、現場を混乱させたという。（もっとも、ヌウェイヒドに言わせれば、彼自身はイギリス人によるニュースのチェックを拒否して、報道の独立を守った³⁸⁾。）ポストンが言うには、当時アラブ住民の多くは、枢軸側と連合軍の対決に様子見を決め込んでおり、イラクのように枢軸側に着いたケースもある。パレスチナ・アラブは、1939年まで3年間の反乱

36) BBC E1/1141 “Broadcast in Palestine”, 22 April 1941.

37) NA C0733/442 MacMichael to Secretary of State to CO, 5 June 1941.

38) Rene Wildangel, “The Emergence of the Public: Arab Palestinian Media in British Mandate Palestine 1929-1945”, P. Sadgrove ed. History of Printing in the Language and Countries of the Middle East. Oxford 2004 pp. 92-93.

で困窮しているところへ、今度は戦時経済のため200～300%のインフレに苦しめられている。こうした状況を見れば、アラブを味方につけるための戦時宣伝の必要性はいうまでもないことだと、ポストンは強調した³⁹⁾。

1941年当時のイギリスによるアラブ・中東向け戦時宣伝で強調すべき要点は、以下のようにまとめられる⁴⁰⁾。

- (1) ナチスの人種理論は、アラブを、ユダヤ人と黒人に次ぐ劣等人種とみていること、ヒトラーはイスラームをまったく理解していないこと、彼らのアフリカ支配が過酷であること。
- (2) 枢軸側のプランでは、彼らが勝利した場合、パレスチナとシリアはイタリアが、イラクはドイツが支配する予定になっていること。
- (3) ナチスがドイツ人以外の他民族を蔑視し、奴隷のように酷使していること、自国内でも精神病者や知恵遅れの国民を抹殺していること。
- (4) かつてのアラブ指導者、ハッジ・アミン・アル・フサイニー（元エルサレムのムフティ）、ラシード・アリー・アル・キラーニー（元イラク首相）、シャキーブ・アルスラーン（アラブ・ナショナリスト）らは、ヒトラーやムッソリーニの傀儡に成り下がり、日本軍による東南アジアなどのイスラーム教徒抑圧に口をつぐんでいること。

端的に言えば、枢軸側は、「アラブの味方」でも「イスラームの友」でもなく、彼らを支配し隷属させることを目的としており、枢軸側に逃亡したアラブの元指導者たちは、彼らの意図を知っているか否かにかかわらず、その道具になっているというものである。

イギリスがとくに神経を尖らせたのは、アル・フサイニーがベルリンのアラビア語放送を通じて、シオニストのパレスチナ移民を支援してきたイギリスの政策を攻撃していることだった。

39) NA C0733/422/3 “British Propaganda in Palestine”, 12 July 1942 ; BBC E1/1140 “Status and Organisation of the P.B.S.” by Poston, 25 Feb. 1942.

40) NA F0371/31341 Sir M. Lamson to Foreign Office, 7 Jan. 1942.

このような主旨に沿ったアラブとイスラームに関する番組は、BBCアラビア語放送で、連続企画として実施された。たとえば、バーナード・ルイス、ネヴィル・バーボア、ハロルド・パウエン、ハミルトン・ギブら一流の専門家を動員して、1941年4月から1942年4月までの1年間、12回に亘って放送された。プログラムは：

- ・イスラームとナチ人種理論
 - ・ナチスはイスラームをどう考えているか
 - ・法というものについて、ムスリムの考え方とナチスの考え方
 - ・アラブにおける「名誉」とナチスにおける「名誉」
 - ・ヒトラー主義——イスラームの敵
 - ・ナチス・ドイツにおけるアラブ研究
- などである⁴¹⁾。

これに対し、ベルリン放送は、1942年11月2日のバルフォア宣言25周年に合わせてパレスチナ・アラブへの呼びかけを強化し、「ナチス＝アラブの敵」論に反駁した。たとえば、ラシード・アリーの問いにナチス人種問題局 (Racial Bureau) 責任者グロス博士が答えるという番組の放送である。このなかで、グロスは、ナチスの人種政策は「ユダヤ人の猛毒からドイツ民族を護る」のが唯一の目的であり、ユダヤ人の「性格と心理は他のセム民族と違う」と述べた。つまり、ナチスは、アラブなどセム民族全体を敵視したり、蔑視したりするわけではない、というのである。さらに「パレスチナにおけるユダヤ人に対するアラブの政治闘争」にドイツは特別の関心をはらっていると語った⁴²⁾。

実は、イギリスでは、ナチス・ドイツとファシスト・イタリアが、戦時下でもシオニストと取引して、パレスチナへ向かう非合法ユダヤ移民を援助していることが知られていた⁴³⁾。しかし、PBSを通じてこのような事実

41) BBC E2/39/2 Miss Davis to Farghurson, 4 May 1942.

42) BBC E3/261/1 Bi-Monthly Service Report "The Arab World, Iran, Turkey", 3 Dec. 1942, pp. 11~12

を放送することは、イシューヴの反発を招くことが明らかであった。

戦争が始まって、PBSの現場と監督官庁の間の摩擦は続いた。ポストンによると、プログラム・ディレクターがフライからマクネイアーに交代した後も、郵政電報庁（以前の郵政庁）の担当官たちが、あらゆる機会を捉えてディレクターの職務を制限しようとしたという。彼は、また、枢軸側の占領下にあるバルカン半島向け放送の重要性がまったく無視されているとも批判した。また、「パレスチナの受信機免許所持者が5万人を越えた現在、しかも戦時という状況下で、PBSが郵政電報庁の管理下に置かれているのは不適切だ」と述べ、組織再編成を訴えた。すなわち、パレスチナ政府の広報部(Public Information Office)とPBSを統合したあらたな機関を設け、トップに強い権限をもった責任者をすえ、この責任者がPMGを介さず直接政府と接触できるようにすべきだ、というものだ。この人物は文化的な素養のあるものでなければならぬとポストンは主張した。彼は、パレスチナ政府のPBS政策を不満として、1942年2月、英語・ヘブライ語部門コントローラーの任期更新を拒否している。⁴⁴⁾

PBSの出力を20kwから50kwに増強する計画には、イギリス軍カイロ司令部が軍事的な理由から反対した⁴⁵⁾。軍は、以前、同じ理由からPBSの出力を5kwに下げることがを要求したが、これはマクマイケルの反対で実現しなかった⁴⁶⁾。

パレスチナを拠点にしたイギリスの宣伝放送として、PBSに代わる役割

43) BBC E2/39/2 “Extract from Near East Department Monthly Report: PART I – the Arab World”, 18 Sept. 1941. 但し、このレポートによると『BBCはこの件を放送することを禁止されている』。

44) NA C0733/422/3 “British Propaganda in Palestine” by Poston, 12 July 1942; BBC E1/1140 “Status and Organisation of the P.B.S.” by Poston, 25 Feb. 1942.

45) BBC E2/400 Report to the Joint Directors-General by E.G.D. Living, 18 Sept. 1942.

46) NA FO371/24569 FO minute “Broadcasting in Palestine”, 16 Aug 1940 ほか。

をはたしたのは、1941年後半ごろヤーファーに開局したシャルキル・アドナ (Sharq al-Adna) である。ポストンは、同年7月、「この放送局は抜群に大きな役割をはたしている。軍当局が経営するこの局は、(パレスチナ政府の公式な放送局である) PBSと違って、より自由な番組編成が可能で、軍事目的に寄与することができる。思うに、エルサレム放送 (すなわち PBS) は『上品すぎて』、アミン・アル・フセイニのような信頼を失った指導者たちの悪口も言にくい。ヤーファー放送 (Sharq al-Adna) は、それができる」と報告している⁴⁷⁾。

1942年9月の報告によると、シャルキル・アドナは、イギリス軍カイロ司令部の管轄下であり、ヤーファーから送信する出力7.5kwの短波放送で、全アラブ地区をカバーしていた。番組スタッフはアラブ人で固められ、トーク・ショーも音楽も全面的にアラブの好みに合わせ、カフェに集まる一般大衆のリスナーをつかんでいた⁴⁸⁾。1942年11月の一放時間、10～12時間におよび、ほぼ終日電波を送っていたことがわかる。同時期でのBBCアラビア語放送は、一日1時間45分、PBS (アラビア語放送) は3時間半である。近隣アラブ諸国のカイロ放送 (7時間半)、バグダード放送 (5時間15分)、その他いずれの局と比べても、より長時間のアラビア語放送を行っていた⁴⁹⁾。それは、アラブ世界なら、いつでも、何所でも、誰でも聴くことができた。PBSのように、ヘブライ語放送や英語放送で中断されることはなかった⁵⁰⁾。

元パレスチナ・アラブ人スタッフ⁵¹⁾によると、シャルキル・アドナはつとめて宣伝臭を避けたので、一般のリスナーはイギリスの軍と外務省のバ

47) NA C0733/442/3 Memorandum by Poston, 12 July 1942.

48) BBC E2/400 Report to the Joint Directors-General by E.G.D. Living, 18 Sept. 1942.

49) BBC E3/261/1 Near East Department Bi-Monthly Service Report, "The Arab World, Iran, Turkey", 4 Feb. 1943, pp. 10~11.

50) Ibid. Near East Department Bi-Monthly Service Report "The Arab World, Iran, Turkey", 8 Oct. 1942, p.15.

51) Ex-Director, Mr. Samir Sherif (1925~). Interview: 17 August 2006 at Montleaux, Swiss; Ex-Announcer, Mr. Kamil Costandi (1925~). Interview: 21 November 2005 at Beirut, Lebanon.

ックがあることを知らなかった。放送時間の多くは、音楽や歌番組、人気作家のトーク・ショー、さらに女性番組や料理番組にあてられた。ニュースは、BBCやロイターからの配信で、「95%まで客観的、イギリスのプロパガンダは残りの5%程度。中東地域の他の放送のような大言壮語は努めて避け、あくまで正確さを追求した」という。

結び：

PBSにはどのような役割が期待されていたのだろうか。

1930年の設立企画当時、パレスチナや近隣アラブ地域からの、アラブ民族主義者らによる反英プロパガンダに対抗することが、その主目的のひとつであった。これは明らかである。1936年春の開局時には、予想される非常事態に備えた、緊急放送としての役割をも想定していた。この前後に始まった、イタリアのバリ放送、ベルリン・アラビア語放送による反英プロパガンダに対抗する武器としての性格も、当然ながら意識されていた。

1939年9月の第2次世界大戦が勃発し、やがて地中海と周辺地域の大半が枢軸側の支配下にはいると、同地域唯一のイギリスの放送局PBSへの期待はいっそう高まった。1938年から始まった、英国本土から発信する短波のBBCアラビア語放送と、パレスチナから発信する中波のPBSを車の両輪として、戦時プロパガンダを推進すべきだとの議論が強まった。1941年から43年にかけて、北アフリカでの死闘がエジプトやパレスチナまで広がりがねないこの時期、いかにアラブを味方につけるかは死活問題だったからである。

しかし、PBSは、地域的な一放送局にとどまり、広く中東・北アフリカ地域のアラブ住民へのアピールをも目指す放送局へと跳躍することはなかった。第2次大戦突入後においてさえ、対枢軸諸国プロパガンダの主力となることはなかった。その出力も、発足時とおなじ20kwのままであった。

ナチスの人種理論と政策が、アラブを含む「セム族」とイスラーム教徒

を蔑視し、彼らを支配・隷属させることを目指すものだという主旨の特集番組を流したのは、BBCアラビア語放送だった。PBSではなかった。

このBBCも客観報道主義を主張して、しばしばイギリス当局と衝突した⁵²⁾。当局は、結局、1941年後半ごろ、パレスチナに、BBCからもPBSからも独立した軍管轄の秘密放送シャルキル・アドナを開局した。この放送は、宣伝臭を抑え、たちまち、アラブ地域で非常な人気を博した。その結果、リスナーの支持を得て、枢軸側のアラビア語放送に対抗できたのである。

PBSは、なぜ、プロパガンダの主要な担い手とならなかったのか。

先ず、開局の時期がパレスチナ・アラブ大反乱開始時期と重なったことである。この時期、イギリスとパレスチナ政府は、パレスチナ・アラブ、およびアラブ総体にとって正面の敵と見られた。PBSは、「敵の放送」として出発したのだ。次に、PBSは、3言語放送だったから、アラビア語放送はその3分の1に過ぎなかった。ヘブライ語部門を含んでいたから「ユダヤ放送」という印象を拭い去ることもできなかった。アラビア語部門を拡充した後も、この性格が変わりはなかった。第3に、財政当局が予算を締め付けたこと、第4に、BBCからの派遣スタッフを含む現場とPMGを中心とする官僚機構との対立、さらに、出力アップの要請に対する軍の抵抗がPBSの足かせとなったと考えられる。このような条件のもとで、PBSが対枢軸プロパガンダの主力となることは不可能であった。

52) BBCと当局 (Ministry of Informationなど) との対立について詳しくは、Peter Partner, Arab Voices: The BBC Arabic Service 1938-1988, London, 1988. Especially see Chap. 3.

The Palestine Broadcasting Service: A British Response to German and Italian Propaganda?

Eisuke NARAMOTO

《Abstract》

The British Palestine Government started its official radio station the “Palestine Broadcasting Service” (PBS) in 1936. Previously to that, the Italian “Radio Bari” initiated Arabic language service to the Middle East in 1935, and a little later the Germans began broadcasting Arabic language radio to the region in 1938. Then in 1939, the Second World War broke out, and Palestine came to occupy a key strategic position, especially during the period from 1941 to 1943 when the fierce fighting between the Allied and the Axis forces in North Africa took place; therefore, not a few British leaders hoped to turn the PBS into a central machine for counter propaganda to Italian and German broadcasting toward the Middle East. The Palestine official radio, however, never played a major role in the propaganda war in the Middle East. It was another radio station in Palestine, established secretly by the British Army in 1941, that undertook this role. Why? The author discusses the reasons for this.

*PBS番組表の一例

(CO323/1588/2 “Broadcast Programmes from Jerusalem…”から作成)

[Tue., 18 Jan. 1938]

5:30pm Time Signal and Announcements

<ENGLISH CHILDREN’S HOUR>

“Nuts and Crackers and Ginger Beer”

---A Seasonal Sing-Song for Wintry Weather

Presented by Frederick Grisewood

with a Grown-up Chorus of Country Singers

<ARABIC PROGRAMME>

6:10 pm Old Arabic songs and Music

by The PBS Arabic Studio Ensemble

6:40pm Talk to Farmers

“Review of Agricultural Season, 1937”

7:00pm Time signal, Weather forecast,

News Bulletin & Citrus Market Prices

<HEBREW PROGRAMME>

7:15pm “Modern maps of Palestine”

by Hillel Birger

7:35pm “Daniel Friedlander”

--A Short Commemorative Programme

For The Opening of “Beith Daniel”

—A Holiday Home for Musicians in Zichron Yaacov

Three Piano Pieces by Beate Goldstein Gumpertz

7:50pm “National Value of Hebrew Music” by Jacob Ben-Israel

8:00pm “Hebrew Melody” ---Violin solo by Yascha Heifetz

8:05pm Book Review by Eliezer Lubrany

8:15pm Time signal, Weather forecast,

News Bulletin & Citrus Market Prices

<ENGLISH PROGRAMME>

- 8:30pm Mozart Symphony No.29
A Play by Helene and Erich Fischer
with Music from Little Known Operas by Mozart
Cast: Rachel Chinn/Leslie Vernon/Jane Heavens
& The PBS Chamber Orchestra conducted
by Karl Salomon
Presented by PBS in conjunction with the Palestine
Citrus Industry
- 9:30pm Time signal, Weather forecast,
News Bulletin & Citrus Market Prices

< ARABIC PROGRAMME >

- 9:45pm Time signal, Weather forecast,
News Bulletin & Citrus Market Price
- 10:00pm Yahya Es-Su'udi
with the PBS Studio Takht
Taqasim 'Oud
Introduction
Taqasim Violin
Muwashshah
Taqasim Kanoun
Layali
Dor: El Mahasen
- 10:25pm Song Recital by Umm Kulthum

< ENGLISH PROGRAMME >

- 10:45pm Barnabas Von Geczy and his Orchestra
Gipsy Wine(Ritter), etc.
- 10:57pm "Sir Christopher Wren" (England's Greatest Architect)
----A Radio Play by C. Whitacker-Wilson
- 11:39pm Announcements in English, Arabic and Armenian

384

Midnight <Part of the Christmas Morning Service of the Armenian Church>
Broadcast from The Grotto of the Church of the Nativity,
Bethlehem

0:45am (Approx.) CLOSE DOWN